

授業科目名： 地理歴史科指導法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 日高智彦・堀川徹 担当形態： オムニバス
実務内容 (実務家教員の場合)	本科目は現場に則した学修内容であり、現場経験のある教員が、実践的な視点で指導する。		
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
「学位授与の方針」との関係			
DP2.共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる（専門知） DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる（実践力）			
授業のテーマ及び到達目標			
高等学校地理歴史科の教員を目指す者が、教材研究や学習指導案の作成、評価法など教育現場に必要な基礎的な教授法を身につける。また情報通信技術を活用した最新の授業法を学ぶ。			
授業の概要			
高等学校の地理歴史科教育における実践力を養い、身に着けた実践力を有効に活用できるようにする。情報通信技術の活用とアクティブ・ラーニングを授業に導入し、実践的な教材研究や指導法を学ぶ。			
授業計画			
第1回：地理歴史科教育の現状と課題について学ぶ。（日高） 第2回：地理歴史科における授業づくりのポイントについて学ぶ。（日高） 第3回：年間指導計画案の作成方法を学ぶ。（日高） 第4回：単元指導計画案・学習指導案の作成方法を学ぶ。（日高） 第5回：効果的な教材活用の方法を学ぶ。（日高） 第6回：授業における情報通信技術の活用方法を学ぶ。（日高） 第7回：学習評価の方法を学ぶ。（目標に準拠した評価、観点別評価、指導要録）（日高） 第8回：「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善の方法を学ぶ。（日高） 第9回：模擬授業に向けて単元指導計画案・学習指導案を作成する。（日高・堀川） 第10回：模擬授業に向けて教材を作成する。（日高・堀川） 第11回：模擬授業を実施する。（日本史）（堀川） 第12回：模擬授業を実施する。（世界史）（堀川） 第13回：模擬授業を実施する。（地理）（日高） 第14回：模擬授業を実施する。（振り返りと討論）（日高・堀川） 第15回：模擬授業に対する振り返りを行い、自らの授業について今後の課題を見つける。（日高） 科目修得試験			
スクーリングでの学修			
主に模擬授業をおこなった後、討論をおこない、模擬授業の評価できる点や課題点を検討する。自らが模擬授業をおこない、また他の模擬授業を見ることで実践的な授業づくりを学ぶ。			
テキスト			
手島純編『社会科・地歴科・公民科指導法』星槎大学出版会、2022年 978-4774080093			
参考書・参考資料等			
荒井正剛『地理授業づくり入門―中学社会科での実践を基に』古今書院、2019年 9784772253277 前川修一・梨子田喬・皆川雅樹編著『歴史教育「再」入門―歴史総合・日本史探究・世界史探究への“挑戦”』清水書院、2019年 978-4-389-50111-2 南塚信吾・小谷汪之編著『歴史的に考えるとはどういうことか』ミネルヴァ書房、2019年 9784623086351 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 地理歴史編 https://www.mext.go.jp/content/20220802-mxt_kyoiku02-100002620_03.pdf			
学生に対する評価			
スクーリング評価（25％）、レポート評価（25％）、科目修得試験（50％）			